

## 日本政治思想史 課題

問題：

- ① 徳川日本の統治体制の本質、そこでの武士の役割を整理し、
- ②その上で、儒学の普及過程と天皇にたいする認識の変化が起きた経緯を述べ、③それが明治初期の「文明開化」といかなる関係を持つのかを説明せよ。

兪 佳儒 (YU Jiaru)

### 一 徳川日本の統治体制と武士

徳川政権の統治は、むき出しの暴力によって成立した。武士たちは（武力的に）強いが故に他人を支配していた。武士の中で最も強い徳川家はその統治体制のトップとなり、ほかの武士たちに服従されているのも当然であった。

成立原理は武力の優位にあるがゆえ、その露骨な武力による統治を維持するために、儒学やキリスト教、そして「天皇」のような超越的正統性原理は不要であった（統治の障害となれるので、危険視されてもいた）。統治を支えていたのは、儒学の天命論でもなく、天皇からの委託でもなく、暴力への恐怖の喚起、つまり「御武威」「御威光」に恐れ入らせることであった。

そして、徳川政権の統治体制においては、厳しい世襲身分制が人々を区分していた。身分というのは、武士、町人、百姓である。武士は「武」に専念しつつ統治し、町人は手工業や商売に従事し、百姓は農業をする。世襲というのは、身分間の移動（あるいは階層移動）はなかったのである。つまり、武士たちは統治の役割を果たしているが、それは武士たちの選択ではなく、生まれて規定されてきた、社会の中の「役」である。町人と百姓たちもそうである。したがって、武士という身分は社会秩序における支配者集団である。

しかし、泰平の世、即ち「御静謐」が続き、徳川政権への畏怖が表されている一方、武力を発揮し本当の強さを証明する機会もなくなった。徳川政権や大

名たちの場合は、彼らへの畏怖を保証するために、行列、家紋、「天下様」の呼称などのパフォーマンスを通じ、強いイメージを維持しつつ、統治していた。一方、一般の武士たちにとっては、待ち続けている次の戦、即ち自身の武力を世に示す機会はなかなか起きないという悩ましい状況であった。武力を誇りとするだけではなく、武力を自己規定性とする武士たちは、人生の方向性を失い、アイデンティティ・クライシスに陥った。

## 二 泰平の世における儒学の普及と天皇認識の変容

### 1. 儒学の浸透

17世紀後半、そのアイデンティティ・クライシスの中で、儒学が徳川日本に浸透しつつあった。儒学を学ぶ武士たちが出現した。それ以前儒学の書籍を読むのは、漢語ができる仏教僧侶が中心であった。

「武」を誇りとする武士たちが、「文」としての儒学を学び始めるのは、三つの原因がある。第一に、戦闘する機会を失い、アイデンティティ・クライシスに悩む武士たちが、傷ついた名誉意識を補うために、儒学的な「士」としての誇りを利用した。第二に、儒学の「仁政」などの論理が、泰平の世において武士統治の正統性を町人と百姓に説明するに効果的であり、武士の組織の維持に役立つという認識があった。第三に、儒学には、統治のための手引きという要素があり、儒学から統治技術を学べるという認識もあった。十八世紀末頃からは、家来に儒学を学ばせる藩学・藩校さえ、大名たちにより作られてきた。しかし、儒学を学ぶ、そして学ばせるのは、武士たちが武力統治の論理を放棄し、全面的に儒学的統治原理に転換するのを意味するわけではない。武士は相変わらず、武士としての自己規定性を貫いていた。

武士層だけではなく、儒学を学ぶ豊かな被治者も出現してきた。十七世紀の経済発展と都市化に伴い、豊かな町人層が形成した。町人層の中で、家業に必要な漢文能力にと止まらず、さらに漢文で書かれた儒学書を学び始めた人が出てきた。彼らにとっては、儒学は科挙に役立つ出世の道具でなく、ただの楽しみ、あるいは遊芸としての稽古事である。徳川日本では、中国と朝鮮と異なり、儒学が官学、あるいは体制イデオロギーとしての存在ではなかった。

儒学が徳川日本社会の各身分層に浸透した結果、当時の思想世界は儒学的思想をめぐる形で展開されるようになった。多様な側面から独特な儒学体系解釈を試みた儒者もいれば、儒学を批判しながら儒学と違う思想体系を創造した知識人もいた。

## 2. 天皇認識の変容

十八世紀半ば頃以降、内憂外患の中で、徳川日本における天皇認識も変容してきた。その背景には、二つの原因がある。

第一に、日本歴史に対する関心度が高まる中で、天皇の優位を認める歴史解釈が次第に普及した。政権を篡奪された天皇に同情的な『太平記』などの書物が流行し、天皇が実権を持つイメージを喚起した。そして、知識人の間で人気だった頼山陽の『日本外史』も将軍の上に天皇がいる歴史観をとっていた。

第二に、そこには儒学の浸潤の影響がある。徳川将軍は露骨な武力によって統治を成立させたとはいえ、形式上は京都の禁裏様から官位をもらっていた。基本的に儒学に基づく当時の知識人たちの考え方から見れば、将軍は「君」ではなく、あくまでも「君」である天皇の「臣」である。儒学的「礼」（序列を重視する）と「名」（序列を確認すべし）の意識に由来する発想である。

つまり、歴史への関心と儒学の浸透を背景に、日本では天皇に注目するようになった。それ以外、美と雅を重視する国学の影響もあろう。京都の禁裏様はまさに美と雅の代表とされ、憧れの対象となった。結果的には、徳川初期知名度の低い禁裏様とは異なり、天皇はすでに権威を持つ政治象徴となっていた。したがって、内憂外患の中で、内的に徳川政権の支配を強固にするために、外的に日本人の精神を再統合し外来の精神的侵略を拒止するために、後期水戸学のような、天皇の優位を認めることを通じ（天皇を利用し）、徳川将軍の統治を再び強固にする発想が出現したのも自然である。中国に対しては、日本に「易姓革命」がなく、万世一系の天皇がいることが日本の優越感の根拠となった（「易姓革命」はそもそも儒学の言葉であるが）。キリスト教に対しては、このように貴重な皇統の連続が日本の精神を再確認する資源とされた。

## 三 「文明開化」とのつながり

しかし、内憂外患は続き、日本はやはり西洋艦船を迎えた。十七世紀以降儒学の浸透の結果として、明治初期の日本人知識人は主に儒学的視点から西洋の物事を観察していた。

「儒教伝統 vs 西洋近代」という通説と異なり、(必ずしも儒者としてのアイデンティティを持っているわけではないが、) 儒学の素養を持つ日本知識人たちは、儒学の視点から西洋のことを評価していた。例えば、西洋の学校と科学を「窮理」と見なし、西洋が日本と清国よりも儒学の理想状態に近いと西洋を評価する渡辺崋山がいた。西洋の病院、幼院、貧院など社会福祉機構を「仁政」の制度的実現と評価する人もいた。儒者・横井小楠はアメリカの「大統領制」を三代禪譲、議会制を「公議」と見なし、むしろ西洋の政治制度が理想の儒学的統治を実現していると認識していた。このような理想に近い状態自体も、漢語の言葉である「文明」「開化」と呼ばれるようになった(civilization に対する福澤諭吉の翻訳)。

したがって、当時の日本人知識人にとっては、儒学と西洋文明は二項対立ではなく、むしろ一致している。内容上の親和性があるだけではなく、両方ともすべての人間に適用できる普遍的道徳を信じるからこそ、日本人知識人が儒学から照らして西洋を評価しうるのだろう。したがって、西洋の文明も「道」に即するという考えに至った。John Stuart Mill の *On Liberty* を翻訳した儒者・中村正直はこのような人物である。「儒学の教えが中村の思想の根幹をなしたからこそ、彼が西洋文明に深い関心と共感を抱き得た」と指摘されている(李, 2020: 15)。

つまり、「文明開化」は、「西洋」から来た新しい標準から照らして、新しいものとして受容されたのではなく、日本従来の標準に即するものとして受容されてきたのである。したがって、西洋は文明の到達点と認識されていたのではなく、文明へ発展する過程で日本と中国よりも優れた方法を発見した存在であった。

当時の西洋人にとっては、キリスト教がまさにその一つの方法である。日本人知識人もキリスト教のような religion が文明開化において果たしている役割を理解した。日本人知識人にとって、religion は「道」を修めるための「教」で

あり（『中庸』「修道之謂教」）、文明へ進む方法である。しかし、彼らはキリスト教が内面的に信じられている教えではなく、むしろ人民を導く手段として利用されている「権謀」である。たとえ「権謀」だとしても、キリスト教は確かに人民の精神を統合する役割を果たし、文明開化に役立てる。したがって、日本でもこのような「権謀」が必要である。その代替物は、正に十八世紀半ば頃以降注目されてきた「天皇」、「皇室」というアイディアである。日本の伝統を代表している「天皇」にもかかわらず、儒学の枠組みにおける「教」と現代ヨーロッパの religion の合成物となった。

それは、近世・近代移行期の日本政治思想史の奇妙さと面白さだと思う。

## 参考文献

基本的に渡辺浩による『日本政治思想史 [十七～十九世紀]』（東京大学出版会、2010 年）を参考しつつ、レポートを作成した。その他、以下の文献を参考にした：

荻部直『「維新革命」への道：「文明」を求めた十九世紀日本』新潮社、2017 年  
李セボン『「自由」を求めた儒者：中村正直の理想と現実』中央公論新社、2020 年

渡辺浩『東アジアの王権と思想 [増補新装版]』東京大学出版会、2016 年

渡辺浩「「国体」の逆説—水戸学—」、渡辺浩『近世日本政治思想』日本放送出版協会、1985 年